

その2

(2015年9月17日～22日)

■9月17日

2回目は、そろそろ蚊も居なくなる頃かと9月半ばに出掛けた。

早朝5時自宅発、高德線「板野駅」正午着。1時間バス待ちして、1時半に^{かんやけ}神宅着。この日は神宅から往復4時間の山道を別格2番「^{たいさんじ}大山寺」に行く予定なりしも、折からの雨で中止。またまた幸先悪いスタートとなったが、神宅遍路小屋を管理しているオジサン達と2時間ほど世間話に興じた。こ野遍路小屋は近くの人の寄り合い所にもなっているようで、近所の人たちも2、3人集まって来た。



今晚の宿、「へんろ小屋四十四号 ^{かんやけ}神宅」。
右上の写真の右奥にある民家がこの小屋を
管理している量屋のオジサンの自宅。
本日は残念ながら雨。
遍路小屋には弘法大師の額と遍路への接
待辞が掛かっていた。



オジサン曰く、「最近の民宿はどのくらいの料金なのか？ ナヌ？ 7千円もするのか？ ハハア、それでは旅館並の料金ではないか。民宿は汚いくせに遍路ブームに付け込んで暴利を貪り過ぎている。この先の民宿食堂〔前項の民宿・寿食堂のこと〕は、昔は土方相手の汚いうどん屋であったが、そうか今は遍路客で繁盛しているのか、ケシカラン、云々・・・」。多少のヤッカミもあるのであろうか。また曰く、「焼山寺から徳島市側に下った所にある大日寺の住職は韓国人の女で、前住職がどこからか連れてきたコレ（小指マーク）であったのだが、住職が死んだので尼ということにして貰って住職を引き継いだ。今は徳島県庁が創った「海外親善大使」とかいうモノに任命されているそうで、韓国人を連れてくることに一役買っているが、これがまた困ったもので、韓国舞踊の大家という触れ込みで時々客を集めて踊りもやるそうであるが、ナニ、実は踊りは踊りでも夜の踊り子だったのだそう。きっと徳島辺りのストリップ小屋に居た女ではないか。遍路の納経収入でかつての貧乏寺が繁盛するようになると、坊主は大金に目が眩んで仏の道を捨て、要りもしない外車を買ったり夜の女に貢ぎ込んだり、碌なことをしない。この坊主も連れ込んだ女とのナニが過ぎて早死したのではないか・・・。マ、それはともかく、檀家はこの女が住職になったことに大反対を唱えているらしいが、本山の高野山はちゃんと末寺を管理しているのかいな？」。

マ、道々会った遍路の話にも「下世話の話では、この寺の尼住職の評判はなかなかのモノ(!?)であるそうなので、今晚はこの寺の宿坊に泊まってみることにした」などと・・・。

小生も、今回この寺を打ったとき、早朝の本堂を覗いてみた。宿坊に泊まったと思われる遍路が数名、この尼住職の説教を聞いていたが、この尼は日本語が不自由なのか或いは説教するだけの仏教の知識がないのか、自分では説教せずテレコに入れた別人の男性の説教を流しているのであった。顔は暗くてよく見えなかったが、気のせいとかケティッシュのようでもあった。

話が下世話に逸れた。今晚の般若湯は、神宅でたった一軒の飯屋に行き、この遍路小屋に戻って蚊に喰われながら寝た。遍路小屋には畳が敷いてあった（管理のオジサンが畳屋だから）。

■ 9月18日

第8番「熊谷寺」、第9番「法輪寺」、第10番「切幡寺」を打ち、吉野川の沈潜橋を渡って吉野川市鴨島の鴨島温泉「鴨の湯」に設置されている善根宿「鴨の湯 いやしの舎」に泊。

「鴨の湯」はかつては市営であったが、市営では経営が困難になり民間に払い下げられた温泉で、その経営者が温泉の敷地内に設置した無料の遍路小屋であるが、男女別に畳敷の3畳間が2室あり、なかなか結構な小屋であった。水道、トイレ完備。温泉入浴料は450円。温泉は殆どが地元の人々。無料貸し自転車2台。遍路小屋で温泉に入れるとは天国であった。今晚の般若湯は、温泉の近くにあったタコ焼き居酒屋。（四国遍路中興の祖、中務茂兵衛建立の遍路道標、

吉野川畔。中務は明治時代の人、長州出身）



■ 9月19日

1 1 番藤井寺から 12 番焼山寺を越えて神山町鍋岩の善根宿「すだち館」泊。「すだち館」はすだち農家兼雑貨店がやっている善根宿で昨年もお世話になった。2 食プラスオニギリ弁当付で 3000 円とは誠に有り難い。閉校した学校の分教場の教員宿舎を宿に使っている。今回は宿泊者が多かったので相部屋となったが、去年は個室であった。ここから車で 20 分ほどの所に神山温泉があり、入浴料込 1000 円で車送迎してくれるのも焼山寺と言う遍路ころがしの山道で大汗を掻いた体には誠にありがたい。



(善根宿「すだち館」。左が店と食堂、右が宿泊部屋)

■ 9月20日

神山町鍋岩～玉ヶ峠～鏡大師～南広野～南行者野～別格 2 番童学寺～17 番井戸寺～徳島市国府町。今回は別格 2 番童学寺に寄るために八十八カ所札所の順番どうりには歩かず、13 番大日寺から 16 番観音寺までは明日また戻ることにしてスキップ、先に 17 番井戸寺を廻って国府町^{こくふ}府中の町の善根宿「栄タクシー善根宿」に泊まった。

遍路小屋や善根宿といっても、その種類には種々あり、格安ではあるが有料の善根宿（上記のすだち館など、通常は食事付）、食事なしの無料の善根宿、四阿だけの遍路小屋などがある。また、数は少ないが、札所によっては通夜堂に無料で泊めてくれる寺もある。宿坊は民宿並であるが、通夜堂は小さな堂宇や山門の 2 階部屋などの物置部屋程度であるが雨風は防げる。四阿の遍路小屋や遍路休憩所は壁が無いので風雨が吹き込むから、シートなどをぶら下げて防がねばならないが、かつての高群逸枝の娘遍路時代の本当の野宿に比べれば雲泥の差であろう。

この栄タクシーは無料の宿で、6 畳間が二部屋、布団や扇風機、テレビもあった。スダチ焼酎もお接待で置かれていた。シャワーや風呂もあった。かつてタクシー運転手の宿舎として使われていたらしい。下の写真のように大きな車庫があるのだが、タクシーは 1 台だけが所在無げに停まっているだけで、今はタクシー会社も半ば廃業状態なのかも知れない。今晚の般若湯は近くの焼鳥居酒屋。

ご主人は、小生のザックに刺繍してある都岳連の文字に気付いて、かつて徳島県岳連主催のアンナブルナトレッキングに参加したことがあると言ってカトマンズやポカラ、ベシサハールを訪れた時の話が出た。

本日の泊まりは 2 人だけだったので夫々個室に寝たが、夜中にご主人が夫婦らしき二人連れを案内してきて、夜分すまないがこの二人に一部屋提供してくれとのことので我々は隣の部屋に二人で寝たが、この二人連れは寝た形跡が無く、どうもすぐにこの善根宿から出て行ったようだった。

翌朝の御主人の話では、この二人連れは終電も終わった深夜の JR 国府^{こくふ}駅でぽつねんと座っていたのを別の誰かがこの善根宿に連れてきたのだそうで、二人とも生きているサインが感じられなかったそうで、「心中天ノ網島」の類ではないかと言っていた。

ひょっとして・・・？ 遍路の白衣はかつては死出の旅装束であった。遍路道中を旅立ちに選んだ遍

路も多い。昭和41年、四国巡礼を済ませた歌舞伎俳優の八代目市川団蔵が、「父母の五十年忌を済ませ
しうえ、無縁の人までとむらいにけり」という遺書を残して大阪行の汽船から投身したことは、衝撃的
な事件としてよく知られている。



■ 9月21日

このような整った善根宿にタダで泊めて貰うのも勿体ないので、今朝は御主人にタクシーで13番大日
寺まで逆送りして貰った(1400円)。14番常楽寺、15番国分寺、16番観音寺と打ち、地蔵越えから眉
山の西側を廻って小松島市に出た。本日の野宿を予定していた JR中田駅ちゅうでん近くの遍路休憩小屋は、国道
55号の路傍にあり車の騒音が喧しく、とても寝れたものではないし、ここ4日間ほどの宿泊“苦行”で
体も草臥れていたので今夜は18番恩山寺の近くの民宿「ちば」に逃げ込むこととした。たった4日間程
で旅館や民宿の般若湯が恋しくなるとは、全く修行の験も何も無し。「野宿遍路」が笑って呆れるワイ。
「ちば」は対応、料理ともなかなかによろし。

■ 9月22日

今回は足に合わない新しい靴で廻ったために、両足の裏の肉刺が大きくなり、また爪も4本程死にか
けてきたので、予定期間の残り1日を残して、18番恩山寺、19番立江寺にて今回は切り上げ帰宅。

(その2 了)

「四国遍路野宿ノ記」目次に戻るには、画面最上段最左端の戻るボタン  で戻って下さい